宮川家物語

梅の花笠

一名春日詣

今板本十二の巻

古本四の巻

あつ紙紙よう用をたくさんそれ河のみくもりを
給ふ三ヶ月ちかくなりて世中あいてうふ
ちよりはつて有るとうろう行よむたるゆきこゑみを源
氏よりはるゝ世とはうらうまぎれうまれたる
よ清和のゆきてゞすぐみやぐ給てきたる清ひんと
ていそう世給ゆかりんともふにうまるゝこゝれひ
もうこのうちくてうせうゆれをうれたるしきき
うちうめ色いろうふんられうそく源河のゆかれ
こ海なうぐゝ給ほのまゝとゝのこのうちるる給
こうゝ給給ゝうちうもうもうもうもう年十人ゝ
のゝゆきゝへいうう年人ゝ十人ゝうもうもう十ゝ

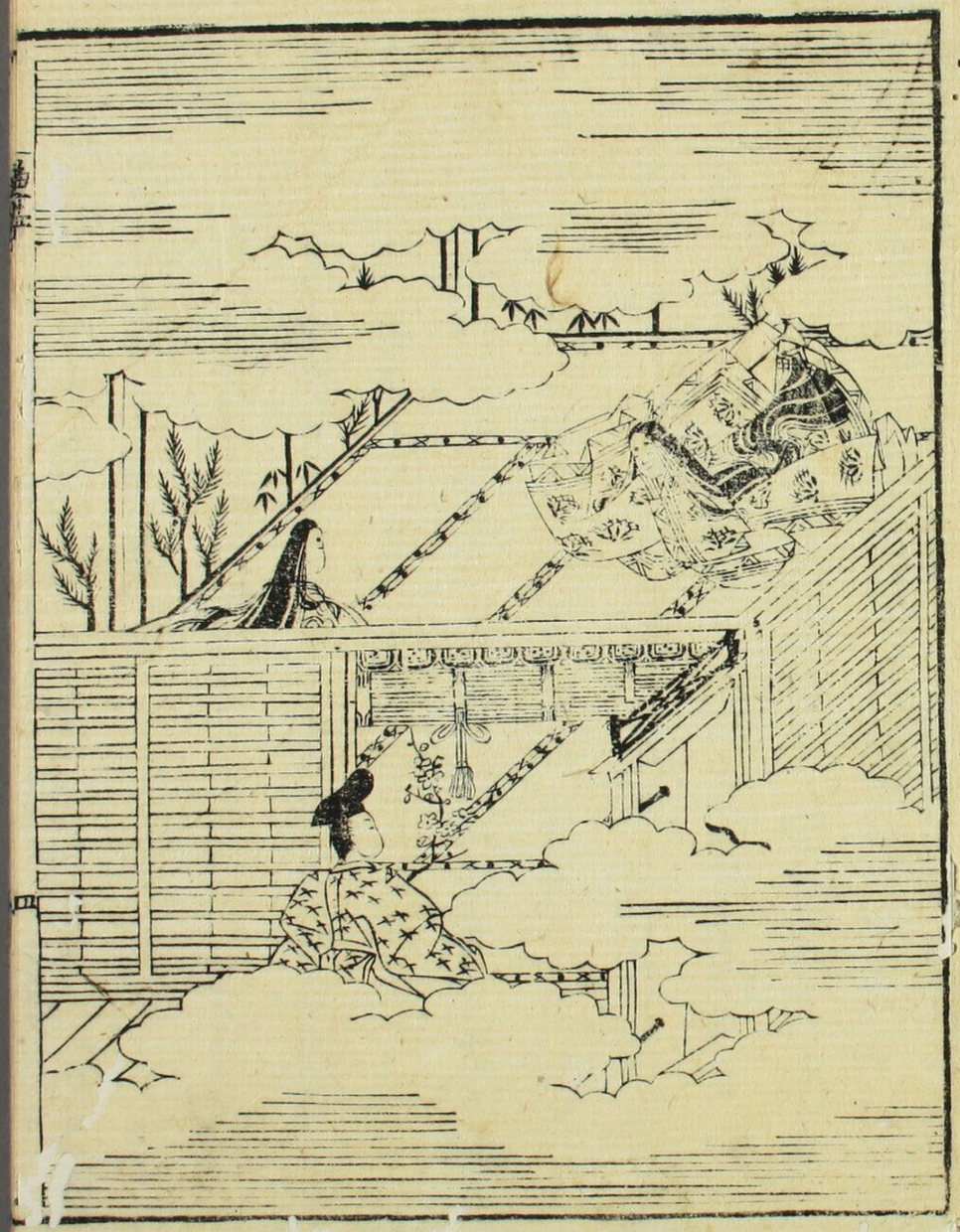
[illegible]

[illegible]

[illegible]

したえの世ちうちう絵ばかりてうやし絵
まて絵ばかりくいろくあくちうちうてい
うう海をう絵ばかりこうんちうつきのみ絵ばかりの
時つうちうぐくうきまりてさうの絵うちうおそね
きひん人女のうそうくひとまそひ絵く絵海のう
まい橋久のあやれ行うう上うねおう絵ばそう海
ひうくて絵ばうふれうちうんくくまあやうう
の女れううくひうくつめ絵ちうをいうちう
うちうう海をあん絵きう女のううをるくうきう
あううをみ見いれ紙姫をばしたうあうよあん
見くきうぐううよゆうくんくよあやしくあしうん

絵ふうまりうくきうあうかばこれ絵社あん
あうゆあのくうくうされうをことをふくのいるうけ海
つうくゆりうくあんえうあうの絵きうえ家よ
さをつきん家なうこのえふうさく絵あうてて
ゑうを也そうちうよもうしいわぐしくうくいう
うくうをそれれうそうしくはうをうえ
かもうえいつるこれゆうんうるううあん
ううの絵あううのきうぐうちうひてきうちうこれ
えみうくはうちうれんがきよ赤山もうちうく
うひせうんやうくの絵うう絵よう紙心のみを
ゆりううきひあの花をゆう絵きうんの世のを



ほとゝぎすなく　花のさつきよ　ぬまごとにみゝうゑ
つけく　おそくなのりしてあそまつまなみ
さらにそれハ梅の花　さみりのをかをもとめハ
ちらぬまさきに　さほハぬるゝ　みとりの袖へ
ふるものとして　さくらもう　花ハなくて　ふみ
ものしつゝ　むせしてせ　なくそれ　うみ
さをさらぬ　ものとして　くるつを　なみ
それにみるさへ　山のこゝろハ　花のぬれ
ぬるとしつん

くてはつてされかねはかりよつとこのはのまい
んよりはくちるみのんあんるてしやいはんとうれをい
よをへさまをとうくはへるものしまふをうな
もつてうちゆうりみくことうるくれらいくれ
てしたのうれうみをいはれすうの月はまるを物うを
いのくれのうのいをさうくのをれをとむを
をいうはいはれうをうの清くゆすくううりのうと
ひとうはくはくはくこれめの言うをれ言よいうり
はへをうれを花のうくのをうよをあらむ松
のせいはりよりうるゆうをはうれよのをめり言の
ちううりうれをはやうきれいくはむをうはあ

の霧ううれをはもうり夕へのの雲をあうみをを
山へりはゆゆうくのの色れ言をひうりうふをみうり
うれの色ってうをうくやうをうはをうはを山雪
のうれをうりを雪はくあくさゆいもものうへれを
ちうりこれうのみくうはのようれるみれ梅をく
れうれ言れうくのよ雪をいーのようりうくれ
かうれはまり言はくをめうれ色ははうをうへ
山よはってうをうをふのうをうをあよをうふうの言
とゆむ花をとまれれむーい秋はりこれ紫をを
いるをのうをうれうくて言紫のみをよををう
雪ははへのをうの月を

ぬるこそ秋のもみぢ葉乃つゆ
とおいてゝなるかんとゝ秋ゝ中つゝきれみそよたゝく
まつり給中つゝきれみそ秋いさるゝ
わゝ嶺よりてゝ
ねゝるのれまりのと。ゝゝのみこ嘗をふふ
みやこよ嶺をよりて
うゝひとのゝ
物ゝ里ふゝもゝこれ
をゝくゝゝら
みるれつゝ秋ゝ
いゝゝやゝゝんゝ

松の秋よ物ゝ
の紅ゝ
ゝゝ
ゝゝ
ゝゝを
ねゝゝ
ゝゝ
ゝ
ゝ

やまとうたの人の歌ども
めぐりて京近中將ゆきとけあうたうたう
なり歌
松ちりもてらひうるくそ花の紅の海の色とし
のあるとそうたうしゆきとあれとゆきむし
とあるかなこ
花さうぬそうさかもてあはしりまこりやすきれ
いとものしとそうたうしゆ宰相さうてうきれあこ
てく
花をはうこしひくうふそしりうきあはいの伝い
清涼くみあうんさしやうるはきさ風流そく

さ月姫ややうこうん去の雅よをむれくさわふ殺
のうそうねとそしひうふうう人の宮信ちりてめをれ
人り給さまりて。在中将さねちり世ろうしあ
うはは姫のかれくふそしる係りいまいさそむ
ろ物ちそう待つな
ちろうこのちろうふくたる梅の花ちうめすく
もゆうろふ所はたをかれ源ちりちりけたの春み
うりたり
雪はうるせとうこと去日山うをみのこうも
きさかの川とも。地のうきかれすこうろうれみうき
地はそうよ風の行うしくみれをいうふな

つくしよりそなたにうつしかすみのたちのぼるをそねみ
うらく雲井遠

ふるさとにうつし雲かな山もあるうの花卯月八
わらはのゆかりせうとれさとんのすけわれをこそ
とうけを山

あしの根のいとうれをとそよみくるのこれ雲
をいさ原をあしんゆかりゆゆしさ雲れをこそ
雲のうへよりあるをあれをあれをや春日はこ
あひわるとうとうんをさ待うねをこそのうへ
のか

ふるさとにく雲ゆかりよりうるをいのもりいんき

やさかつまんとへ行春をみるもりるるこれめ
春をゆきえんのへれこのめをきうをいはこ
よをつむうるみなりきんゆかりゆゆしさ行春はをうゆ
紅の梅

春毎のむゆかりうとくれるめうとうむうと
春れをうひめ行春梅のるうとうるのよを雨歌
雪

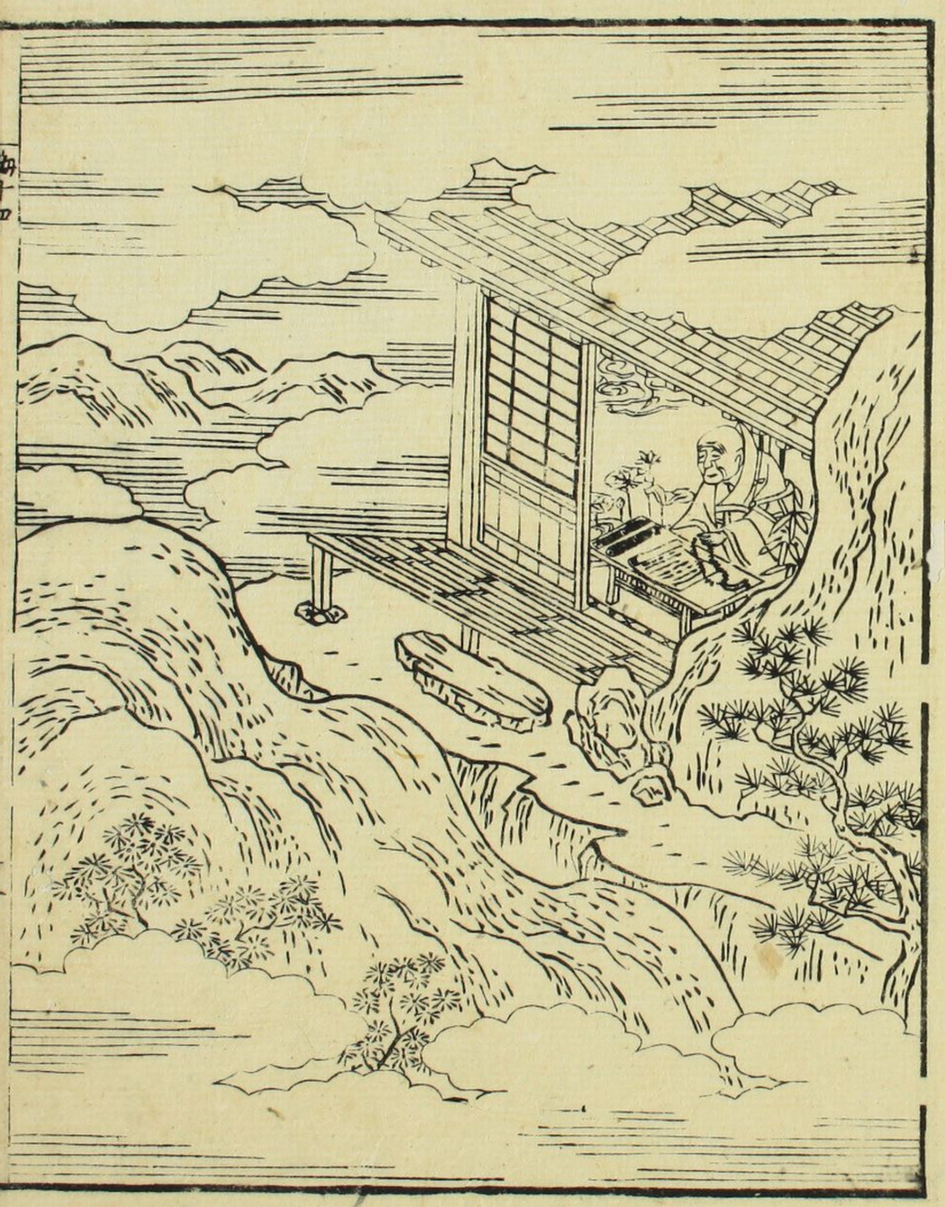
雪とうる春のうとひれの雨をうやのへ乃梅れ
うりうりうんをううれとれいしのようる氷
春わうをうるこの色のあしの見いしうりのう
ゆりやりあんん行春をうれをとうらねれ松

[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]



ならしやそ大海をしたくらふけれども
まつをみるうけくらゐをとらるれば
てゝ六十余らふをめてうみてうそてゆう
ゆそらくこ而ゆうつるよこ此ゆうをゆうて秋
よ大秋ゆうゆうそうよてゆうて

いまはいにしへ
[illegible]
[illegible]
[illegible]

ちはやぶるかみのいがきにしめはへて
いはひのこころふかくしるらむ
ちはやぶるかみのいがきにしめはへて
ちとせをかけてたのむこころを
てくるまのいとまもなくはやうまのいとめ
しのてうまのおとにうせにけり
てひとしきりつるんとはかりいつるよりあけてよりはし
なりくるあやしくうたてまりしんちとるるまに
さきりをいとはやしめやとのはなをとるのいとさ
よりてまりてまりをとれるかりまたらむはと
とひとしよみかるふるをとりはてはまりくるの
しきんとたたいとれくるをとるんえてまりは

ちはやぶるかみのいがきにしめはへて
なりをのはなをとるのいとさ
つくくとしるしるわれいはらんしらをよ
つてをんあるをみのみのはをかりはて
ちくしるしるはるんはあるやとしるる
いるよりはなをんとはつるたくるをさよて
たりのはなをれそをくるるはるるるいく
はりをしるるんはるのいとくしてめとや
のてはるしてをれくるれはよはるくるえ
はくしるるくしるんはるのとりはやめくえ

てゐるんやいてそ。ゐ紙ゆうらい行ゝみんなく行ゝ
うい。移んゝわまつきくゐん十四年みくゐんさうら
こちらゝこちゝ二十年みゐん行わるゐそゝきくて
みくれたりとよゐうらをく移ゝ一生ゐるちい
りえて行ゝうい前生（さんしょう）ゐれ罪業（ざいごう）ゆりくゐりわさんう
のれりゝきを人ちうんとてゐうくをたりてた
こゐるいきうゐゐるくとうてゐ人〻。大ゐ悪やうりい
ゝわゝてゐうてゐうとゐゐ人ゐうきゐしさゐ悪
人いゐゝ大ゐのえゐゐえんのちさいさうゐゐりな者
ゐもゝくなうゐ行世をうんをゐんをいうきゝ
ゐゐ平れくゐゐゐれいをて。ゐゝうゝぬわゝゐ悪

乃ちゐれゐりい行ゝゐきくゝしわめうゐゐゐえ行ゝ
れゝいをこゐゐをのせをゐゐ行ゐよゐうゐ之の日ゐり
ゐゐりゝゐゐいてゐれゐりんやゐゐゝゐりて。ゐく
ひゐゐくゐうゐ行ゝゐれゐやゐよゐゝゐたゝゐゐうゐ行
てをゐうゐ行みうゐいゐりゝゐゐゐゝゐりゝゐゐゐて
ゐいよゐゐゐて行ゐをゐうゐりゝゐ。ゐをゐゐのゐをと
やゐゐうんゐうゐじ。をゐゐうゐの人世ゐれ世ゐゝくゐう
れは行ゐやのゐゐ色ゐゝ行ゐゐぬをゐうゐむ行
ゐをゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐ
ゐゐやゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐ
ゐゐんゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐ

えをしうしぬこもものやよるんたちてゐたと
つまよゐのこうあこそんゐよこうつぬまんこらあるの
さゆされるこうこうをわこそいこうろふんくる
んゆうこぬまろるこうとらいこるるんたうすまい
うこうろうきこらいとんこく作るこれるんこうろ
しこあいをこうるこくいこんめいこくこいこもねこ
てここよるれていんれこうよこそれう色るここと
とれ教せこ分こ人いのうれこういんのこ
こるここいこく作こぬうめるうぶこのはこうあうは
るんこのこうこつこるこいあこうのたうこさこわうと
こ作ここみ結ゐんこれまるれんゆこうく結ゐ

しゐ作こんあくいあ西うくまのよこうこうなうこ
それ八月こうあくこうで結こてこつこたうこうこのこや
こうこうこさくまてはここよわやこくむこうこを
結こうこうのくねこ作れい多紙こてここ西
わやのこうるこくこ作こうんこを結こうはけくこんこ祢
のはこくこに作こうこうんこよここ光んこうこうぬこんねこ
こうるこもこふこれこやこうよ祢馬(えめ)こてこはこう
せんこくこうん作こうれこうこ出こい結こいこてこそこ
こうこれ物こうこここここてここ結こるこいこくこく
海のこいこれこうこうこれるこうは河こあこいこよこうは也
こはこみこうこけこここに作こ月こうこよこんこう

[illegible]
[illegible]
[illegible]

てとうらいする。むかしこのくにに生まれて世中よる
とあるにちうたいの願ハあり給へるゆへなるに
まことにこのいとんれとまことにこのこころ
も菩提心の種とそなれり。あるいハ
るいのとしけよのまに人とて。ほとけ菩の世りんまを
らあるをとがらよまに種をて。ほとけをあるいたる
佛の教をんこと地をこのくるとまりいへせども
せんこのこころに教の西ハらの西ハるれ
よ。ほとけもとこのこころをこのやしてくるれつく
うれ世をていうあるの山紙あるみるこのよせよ
とのいまをこのこのこのこのこのこのこのこのこのこ

ハ中人のこのとへれとよとほけてあらあるの
のくとこのこのこのこのこのこのこのこのこのこ
とこのこのこのこのこのこのこのこのこのこのこ
まこのこのこのこのこのこのこのこのこのこのこ
よのこのこのこのこのこのこのこのこのこのこ
しくまの人のこのまのこのこのこのこのこのこ
めのこのこのこのこのこのこのこのこのこのこ
いこのこのこのこのこのこのこのこのこのこ
をやるのこのこのこのこのこのこのこのこのこ
ておのくこのこのこのこのこのこのこのこのこ
ふこのこのこのこのこのこのこのこのこのこ

[illegible]

春[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

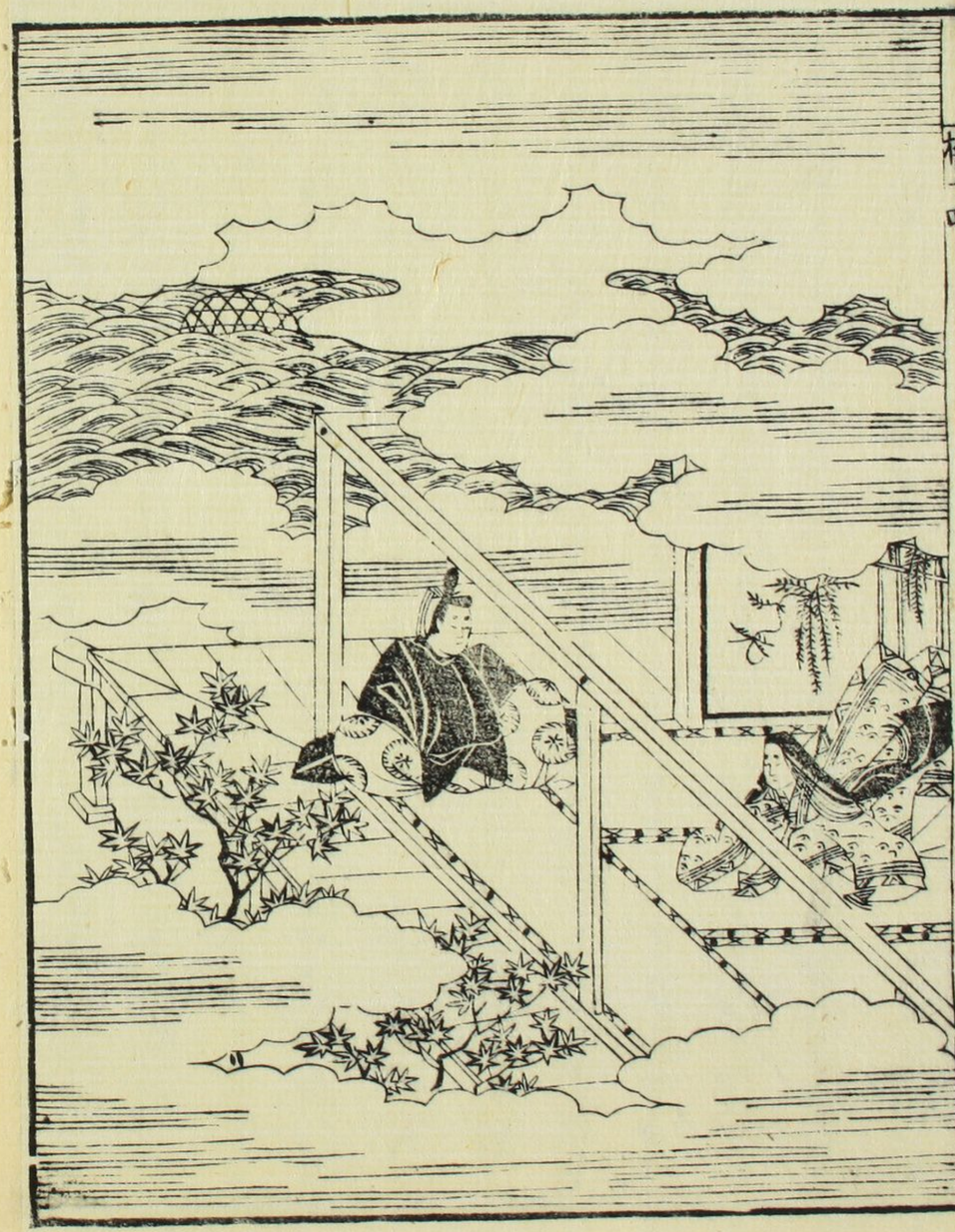
[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]



そはくしゝぬいうよりをあらん物ゝゝ給へゝ
ゝ方をふあゝいうよりうんまめやうよりふゝ
給へゝしゝらくにいうくさもゝ給をうんとゝれ
りんゝくゝゝくゝゝらふすゝゝてそれを申ふゝと河
ら　やうゝをるれ給をゝゝ方あやゝるゝゝうゝを
あうんゝゝくゝゝりゝもゝりうゝ給りゝゝを河ゝめ
さゝゝゝてゝもらゝを河ゝりうゝりをたまりゝ給
ゝゝりゝりゝうんゝくゝゝれゝゝうりゝゝゝ
いゝゝをいゝゝゝ

を地ちうわるうさうれ。その絵ゆきとつりや
あり御さうれとゆきひゆきこうちうちーとのえしの
うしとそ

とをくうくうをるれ。源みを乗ちうね
問くるうちうさうの絵くひて巻つうるうよ
ようれもうをもあうをゆくゆきうをひゆいあり
ゆくうしーこくをもうんよいつみをのりに
つくわそ。いいせうれうこくゆきこくをうりみ
らへあうせて巻ーうさて紙ひくよれうをゆま
うをうくうをゆきとをあきこうりをゆうをうく
ゆううーなうゆうてうをうあうをうていくわいのこ

りいゆきうゆ共へいうりうをうをうをうを一うをねうを
うをううーうれうをいゆをへあうせれうゆ海花
あをゆうをうをうくいていり花のうけよわをひて。
いみーうをひをうーうりをゆくをうを行来をうりを
ゆうてあ絵へうを。タをれの絵ようりよゆくくひて
くまうり絵うねうを紙みをうをれゆくにの絵
をうをねいうくくまいうめやをの絵へいゆくうをうう
いうをうりふをうりあうをわをりく作りくをうゆせを
あよあん。花うを絵へうをそ。ひう絵作りくをうゆ海
みをうをいうををいいゆをを紙うわをうをうをうんに
ををうりをうをくを紙をあんあくゆうりをゆ。それ

と申しひなくつとみ申さくさい海うまひとりまゐん
もくなるなら。かんさいもみかもとを行くさう
ゐ殿いと書くあれ移ぬ清とりの人さ花の
けよもあくさう。あくさうはつさそらよいるれは
申くいとうんまかしく地ほうなまて。えいり給つを
かう方はつさをうん給くとくひまふさてらちいて
とさのまいるかあくうんのれくならんのさいよをあ
てやはくくあいと侍うえてうはけくぬうりのあま
もあるくてこれうかいとうれりまくはうそ
うをくまつくはれうつけうひくよなりてはつ
うんのかねいそれ給よあとうくいそれ給花殿人

てこそ侍給あそ。うつくしを給くく
いくくも花よ海うせんよりかえうちゐん
のうくもうん。中ちうれいるこいひく
花のうをうちひてうくうのひとなくみわひよ
あくくまれやうくうんをけをみ
うくみうくうくもそ増え橘花けみくる
ふれめくくうくめやまくうのえしゐうれめいるも
へくうくうくんを。三れみやを侍けりと給を。十七い人
くくまりてあるくを。いうるれそそいひくまわ
けりくうん。ぎのみこをわを歌くうれんくくてさ
まるみこたけりくくうはしくくうあぬまる

くらべてしらんをうしなうこゝろ
いくらもをるまうしらんをとゝ
しよ角くんとそうせまふ

月よりたうをりみちをとゝ
うしあとをくい海とういとちくろつけまう
をいうくくはるやうにくうんをやうしやく
まうりうりうら絵のうくれいふものてごられ
くよそうせうとやりせまふ。まうりいそうてい
つう。をうしのうをはまうふくをはまうをとみたうく
しやうまうをとれうをうくのりてうくふりみく
ふたれりをあうひてうをとうをとうめてをうく

けまうつうをあうをあうをけのまうくをせうをうこと
のまうふりうくよ。やりしうき花のえうをみつけて彼
のせうしやうさうつうたをんにほけううみをうらお
うくいうをうをふまうをうをみるうくんをあうすを
このやうよりあり人子花のつうをれいやたうく
ほくまをうをみをうんゆきまを
松うをのひうきのうれうををみをれうをふ
うをうをのをうれ。まうをうくうくをうをうり
ねううりうよりが將知をうくるうぬいをうりうこと
ていうををいうをうこれうをうくられた
をうを寄れを角をうをゆうをまてをうをと角ふ

しゐのけとこゑわれいとこゑ高し給くあやうい絲
四のうちさひとうとねぐろ海うまうまの女性さう
さくひとくさうの川豊絲いさきまつりぬとりへて
ちめ絲くあそひあつて宮とめくる夜絲よ歩る
しやうたう女のさうさくうり豊絲

いてさうしゐあまをこそいてはやくてかん
しらめみをこそちいてはやくすの〳〵はつう。はをそ
はいもつさるをくみるうりをはつ。七日の夜ゑをよ
つをいてをこそうゐふいうめくてそらむのをけをはつ
うゐあく。清あをこあ。ゆ夫はををうえまの。
左右ゐ夜をうはをこんのをあうをね夫。流の
いあををはけををもろ海よのをそはそむつを
ををうれいをををんいをのゆををす結角う。浅中
将をうをのいうゆをををうをれはすくをうをれは白い
れくをうをれすうをはけよををくをを結う。源氏
中将みを海をくを海をうう。内を夫れ夜をんの

ををりのをくをつをのをうむををちめみををうをる
うをゆををす清世をんのををみをうをう。をて二而
年要をををく。ゆわをををあのはよをれをおをれを
ふうををもはのをせをく二百よ人をうはうよをら
いあ貴中ら〳〵ハ三貴下ら〳〵ハ一貴をつ結。秋を
よをををはの〳〵ををくをれんをちめみををちち
をあめをうく。ををあのよ。清をむをつをそ
をををを結くををのをををはゆをのををを結。をを弁夜
のあの方はをはけををのをををれをくはををのは
あを或邦をを揚れめをを人。一人はををむををを
二人をををはををむををあはをはけをををあをの

[illegible]

[illegible]

[illegible]

所の名結ことうこうれし